

CASBEE 京都-新築(2011年版)

(仮称)中京区柳八幡町計画

■使用評価マニュアル/CASBEE 京都-新築 (2011年)

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE 京都-新築2011(v.1)

スコアシート 実施設計段階

配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
				評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質								3.0	
Q1 室内環境					0.40			3.2	
1 音環境								3.3	
1.1 騒音									
1 室内騒音レベル					3.0	0.50	3.0	0.50	
2 室内騒音レベル					3.0	1.00	3.0	0.50	
3 室内騒音レベル					-	-	0.50		
1.2 遮音									
1 開口部遮音性能				T-2サッシを採用	3.0	0.50	4.0	0.50	
2 界壁遮音性能					3.0	1.00	5.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				フローリングL-40を使用	-	-	3.0	0.30	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-	-	5.0	0.20	
1.3 吸音					-	-	3.0	0.20	
2 温熱環境								2.7	
2.1 室温制御									
1 室温					1.8	0.35	3.0	1.00	
2 室温					2.6	0.50	3.0	1.00	
3 室温					3.0	0.63	-	-	
4 室温					-	-	-	-	
3 外皮性能					2.0	0.38	3.0	1.00	
4 ソーン別制御性					-	-	-	-	
2.2 湿度制御					1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式					1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境								3.0	
3.1 昼光利用									
1 昼光率				●自然 A(全国版準用)	3.0	0.25	3.0	0.50	
2 方位別開口					3.0	0.60	3.0	0.50	
3 昼光利用設備				●自然 B(重要内照)	3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策									
1 グレア対策					3.0	0.30	3.0	0.50	
2 グレア対策				●自然 C(重要内照)	3.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度					3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御					3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境								3.9	
4.1 発生源対策									
1 化学汚染物質				F☆☆☆☆を採用	3.0	0.60	5.0	0.63	
2 化学汚染物質					3.0	1.00	5.0	1.00	
3 化学汚染物質					-	-	-	-	
4.2 換気									
1 換気量					3.0	0.40	3.0	0.38	
2 自然換気性能				●自然 A(全国版準用)	3.0	0.50	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮					3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理					-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視					-	-	-	-	
2 喫煙の制御					-	-	-	-	
Q2 居住性能								3.0	
1 機能性								3.0	
1.1 機能性・使いやすさ									
1 広さ・収納性					2.5	0.40	3.2	1.00	
2 広さ・収納性					3.0	0.40	4.0	0.60	
3 広さ・収納性					-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応					3.0	1.00	4.0	1.00	
3 バリアフリー計画				●大切 D(独自基準)	3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性									
1 広さ感・景観				●とも C(独自加算)	1.0	0.30	2.0	0.40	
2 リフレッシュスペース					-	-	3.0	0.50	
3 内装計画				●とも D(独自基準)	1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理									
1 維持管理に配慮した設計					3.5	0.30	-	-	
2 維持管理用機能の確保					3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性									
2.1 耐震・免震									
1 耐震性					3.2	0.31	-	-	3.2
2 耐震性					3.0	0.48	-	-	
3 耐震性					3.0	0.80	-	-	
4 免震・制振性能					3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数									
1 躯体材料の耐用年数				●大切 A(全国版準用)	3.9	0.33	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔					5.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					5.0	0.23	-	-	
4 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					3.0	0.09	-	-	
5 空調換気ダクトの更新必要間隔					3.0	0.08	-	-	
6 空調・給排水配管の更新必要間隔					3.0	0.15	-	-	
7 主要設備機器の更新必要間隔					3.0	0.23	-	-	

2.4 信頼性					3.0	0.19		-	
1	空調・換気設備				3.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備				3.0	0.20		-	
3	電気設備				3.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20		-	
5	通信・情報設備				3.0	0.20		-	
3 対応性・更新性					3.0	0.29	2.5	1.00	2.6
3.1 空間のゆとり									
1	階高のゆとり						2.0	0.50	
2	空間の形状・自由さ	●	大切	A(全国版準用)			2.0	0.60	
3.2 荷重のゆとり							2.0	0.40	
3.3 設備の更新性					3.0	1.00	3.0	0.50	
1	空調配管の更新性	●	大切	A(全国版準用)	3.0	0.17		-	
2	給排水管の更新性	●	大切	A(全国版準用)	3.0	0.17		-	
3	電気配線の更新性	●	大切	A(全国版準用)	3.0	0.11		-	
4	通信配線の更新性	●	大切	A(全国版準用)	3.0	0.11		-	
5	設備機器の更新性	●	大切	A(全国版準用)	3.0	0.22		-	
6	バックアップスペース	●	大切	A(全国版準用)	3.0	0.22		-	
3.4 省資源性(省資源)									2.1
1 生物環境の保全と創出		○			2.0	0.30		-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		○		京都市景観条例に認定されている	4.0	0.40		-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮					2.5	0.30		-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上					3.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					2.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性									3.3
1 建物の熱負荷抑制					3.0	0.40		-	3.0
2 自然エネルギー利用					3.5	0.20		-	3.5
2.1	自然エネルギーの直接利用	●	自然		3.0	0.50		-	
2.2	自然エネルギーの変換利用	●	自然	太陽光発電を使用	4.0	0.50		-	
3 設備システムの高効率化					4.7	0.40		-	4.7
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)					#VALUE!			-	
集合住宅の評価					4.7			-	
4 効率的運用								-	
4.1	モニタリング							-	
4.2	運用管理体制							-	
1 水資源保護					3.0	0.15		-	3.0
1.1 節水					3.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無	●	自然		3.0	1.00		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無							-	
2 非再生性資源の使用量削減					2.9	0.63		-	2.9
2.1 材料使用量の削減		●	とも	A(全国版準用)	2.0	0.07		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.24		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		●	とも		3.0	0.20		-	
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用		●	とも		3.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		●	とも		3.0	0.05		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み		●	とも		3.0	0.24		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.0	0.22		-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.32		-	
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.68		-	
1	消火剤							-	
2	発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50		-	
3	冷媒				3.0	0.50		-	
1 地球温暖化への配慮					4.3	0.33		-	4.3
2 地域環境への配慮					2.4	0.33		-	2.4
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善		●	とも	A(全国版準用)	2.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					2.6	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減							-	
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.33		-	
3	交通負荷抑制				3.0	0.33		-	
4	廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.33		-	
3 周辺環境への配慮					3.1	0.33		-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40		-	
1	騒音				3.0	1.00		-	
2	振動							-	
3	悪臭							-	
3.2 風害、日照障害の抑制					3.0	0.40		-	
1	風害の抑制				3.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制							-	
3	日照障害の抑制				3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制					3.7	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			屋外照明がない	4.0	0.70		-	
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●	大切	B(推奨内容)	3.0	0.30		-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目 重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともにも使う 「自然」:自然からつくる